

コロナ禍でもボランティアさんの活動パワー健在！



2020年度は新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発令や10月に新病院のオープンと、千葉県がんセンターにとって激動の一年でした。病棟内で活動するボランティアの受け入れは、感染予防の観点から中止していますが、外来ボランティアと



グッズ・ボランティア、園芸ボランティアのみなさんには、困難な状況の中、患者さん支援のための活動を続けていただきました。写真右上は外来入り口に立って、車椅子介助のお手伝いをする外来ボランティアさん。高齢の患者さんの通院では手助けが必要なことも多々あり、新病院でのご案内など様々な場面で活躍されています。旧外来玄関前の通路に花を飾って季節感を届けてくださる園芸ボランティアさんは、苗の植替えや手入れ、水やりを毎週行っています。写真右中は乳腺外来カウンターに置いてあるグッズボランティア K さん作成の胸パッド。

利用された患者さんから「2月に手術を終えたばかり。Kさんの温かい気持ちあふれるグッズを見て、こちらも優しい穏やかな気持ちになりました」「受付で見つけ嬉しくなって頂きました。ありがとうございます」といった、お礼のメッセージが寄せられています。



タオル帽子へのメッセージでは「大変快適にありがたく使わせていただいています。縫い目も当たらないように工夫されていて、後ろのゴムのフィット感も良くて、本当にありがたいです」。バンダナ作成の O さんへは「これから髪が抜けるので使わせていただきます。とても明るい色使いで肌にも優しい布を使ってくださっているのを使うのが楽しみです」の声が届きました。ボランティアさんにとっては、患者さんからの使い心地などの生の声が一番嬉しいようで、タオル帽子、布帽子などケアグッズへのメッセージは、必ず作成者に支援室からお届けするようにしています。

ここでご紹介しているボランティアさんは全て無償の活動です。せめてケアグッズ作成の材料代など活動の支援ができればと、1階会計カウンターに募金箱を設置。頂いた募金はボランティア活動全般に使わせていただいております。

現在まだ休止中のイベントボランティアや緩和ボランティアが1日も早く再開でき、ボランティアさんのパワー全開で、患者さんの闘病生活の心強い支えとなってくれることを願わずにはられません。

